

過去から未来へつなぐ想い 首里城復興STORY

一人ひとりの想いを集めて、
首里城復興へ



写真提供:首里城公園

首里城正殿は、2022年に本体工事着工、
2026年までに復元を目指して進められています。
その後、北殿や南殿等の復元に着手する計画となっています。



令和3年度首里城復興推進事業

【発行元】沖縄県（知事公室特命推進課）
【監修者】沖縄県立芸術大学 准教授 麻生 伸一
那覇市立嘉屋敷博物館 主任学芸員 倉成 多郎
一般社団法人沖縄美ら島財団
総合研究センター琉球文化財研究室 室長 幸喜 淳
沖縄県教育庁文化財課 主任 山田 浩世
琉球大学附属図書館 職員 前田 勇樹
【協力】沖縄県教育委員会・首里社地区まちづくり団体連絡協議会
【漫画作画】和々
【印刷・制作】ID BRAND



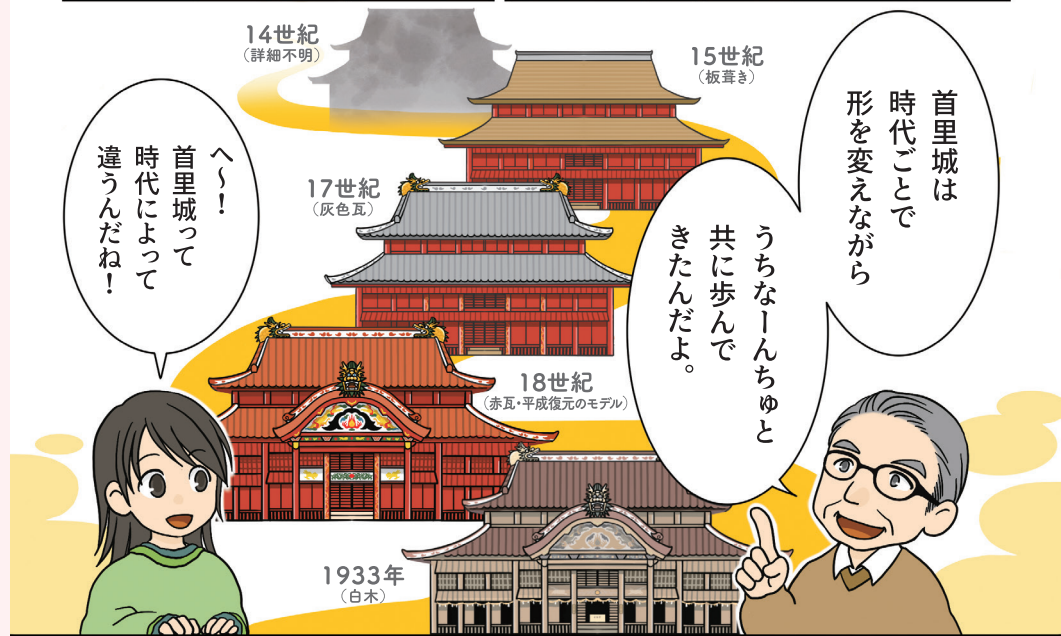
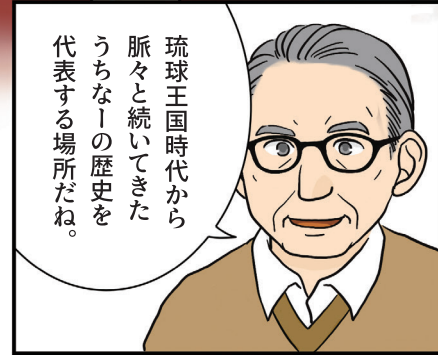
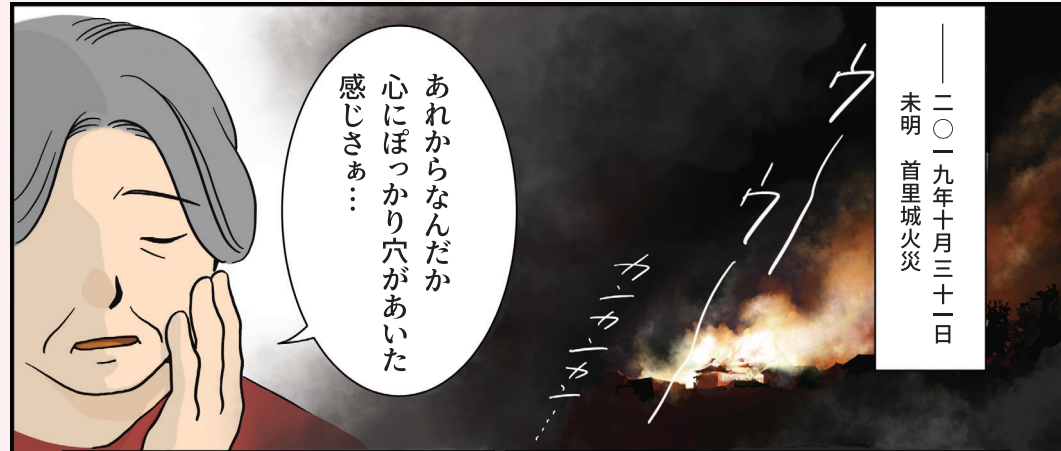
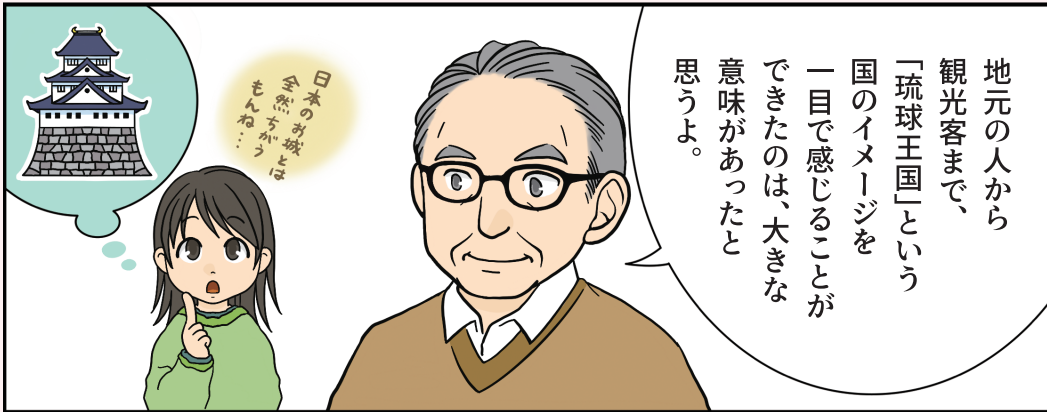
沖縄県特命推進課
公式 Twitter



沖縄県公式首里城復興サイト
首里城がつなぐ過去から未来へ
<https://www.shurijo-fukkou.jp/>



沖縄県公式
首里城復興サイト



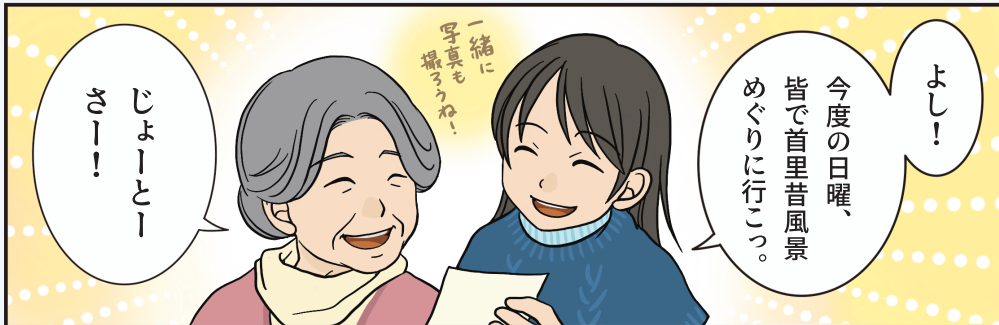
歴史ポイント① 沖縄の歴史の象徴、首里城の変遷



14世紀に築城されたとされる首里城は、王国時代には政治・外交・文化の中心として存在していました。1879年の「沖縄県」設置後には学校校舎などとして利用されます。1925年には正殿が「沖繩神社拝殿」として国宝に指定、1945年の沖縄戦で灰燼に帰しました。1950年には琉球大学が開学し、1972年の日本復帰後には首里城再建計画が本格化します。また、2000年には首里城跡が世界遺産に登録されました。時代ごとに変化する首里城は、琉球沖縄史の象徴的な存在ともいえます。

※色や形状は諸説あり

<h3>中城御殿(なかぐしこうどん)</h3>		<h3>龍潭通り</h3>	
<p>昔</p>  <p>戦前</p>	<p>今</p> 	<p>昔</p>  <p>1950年頃</p>	<p>今</p> 
<p>かつて、琉球国王世子(お世継ぎ)が暮らしていた邸宅。現在は跡地の発掘調査等が行われています。(龍潭の北側/旧県立博物館敷地)</p>		<p>琉球王国時代、御殿(うどうん)や殿内(どうんち)が立ち並んでいた首里城下町のメインストリート。</p>	
<h3>中山門</h3>		<h3>円覚寺</h3>	
<p>昔</p>  <p>1900年以前</p>	<p>今</p> 	<p>昔</p>  <p>戦前</p>	<p>今</p> 
<p>守礼門よりも先に建立された中山門は別名「下の綾門(あやじょう)」。1908年、老朽化を理由に撤去されました。(首里高校裏/県道50号線)</p>		<p>1494年に建立された王国時代の琉球における臨濟宗の総本山。国宝にも指定されたが沖縄戦で破壊。現在は一部のみ復元されています。</p>	



よし！
 今度の日曜、
 皆で首里昔風景
 めぐりに行こう。

一緒に
 写真も
 撮ろうね！

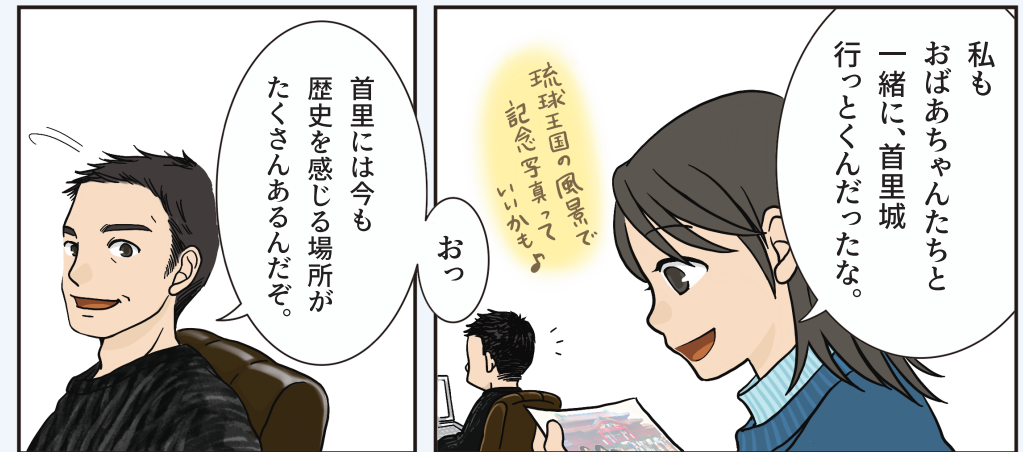
さー！
 じよーとー



あいつ！
 懐かしい写真が
 出てきたさー。

復元当時に
 皆で首里城に
 行った時の
 ものだねー。

30 years ago...



私も
 おばあちゃんたちと
 一緒に、首里城
 行っとくんだったな。

琉球王国の風景が
 記念写真って
 いいかも

おっ

首里には今も
 歴史を感じる場所が
 たくさんあるんだぞ。

<h3>守礼門</h3>	
<p>昔</p>  <p>戦前</p>	<p>今</p> 
<p>16世紀に創建された守礼門。冊封使(さっぽうし)*の滞在時には「琉球は礼節を重んずる国である」という意味をもつ扁額(へんがく)「守禮之邦(しゅれいのくに)」が掲げられていました。沖縄戦で焼失したものの、1958年に復元されました。</p> <p>* 琉球国王を任命するために中国皇帝が琉球に派遣した使者。</p>	

首里の
 昔と今を
 見比べて
 みるかい？

click!

歴史ポイント② 沖縄戦における首里城と首里のまち



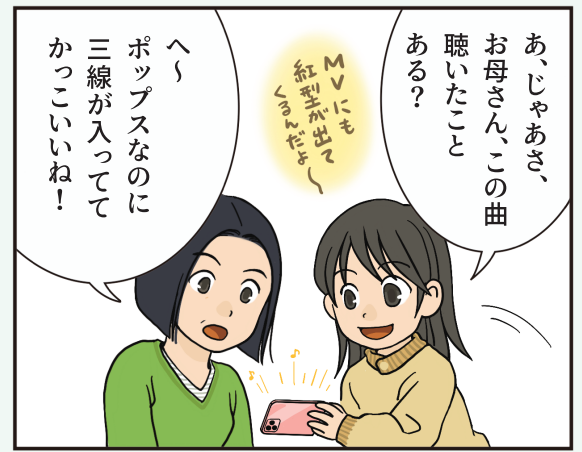
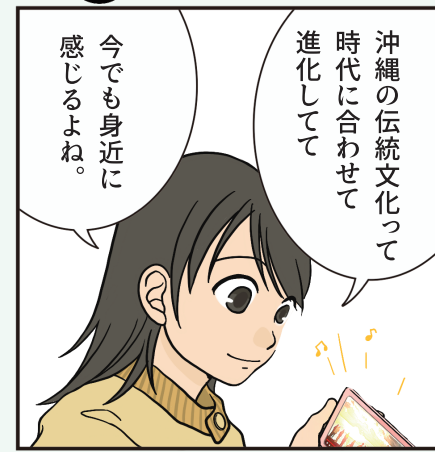
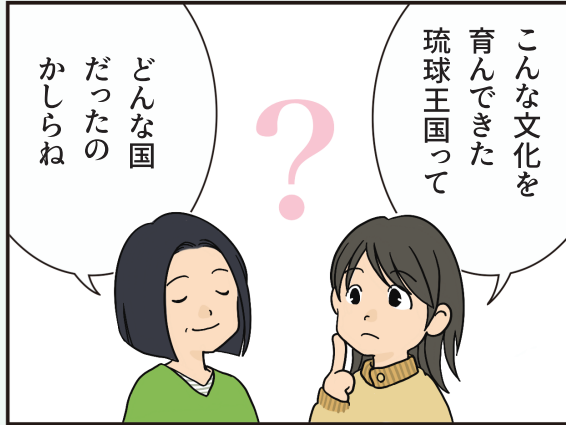
破壊された首里城(写真提供:沖縄県公文書館所蔵)

第二次世界大戦末期の1945年に激しい地上戦が繰り広げられ、多くの人命が失われた沖縄戦。沖縄戦では、沖縄の文化財もまた大きな被害を受けました。戦後、アメリカの統治下にあった沖縄では、かろうじて残された文化財の収集や復元が計画され、守礼門の復元などが実現しました。そして、1972年の日本復帰後、首里城復興の気運が高まり、復興への歩みを一歩ずつ進めることになりました。

首里城公園内及び首里のまちでは、現在もなお戦争の痕跡を辿ることが出来ます。沖縄戦における激しい戦闘の中、現在の首里城公園の地下に構築された南北約1km以上にも及ぶ「第32軍司令部壕」もその一つです。「第32軍司令部壕」は、2019年の首里城焼失後、改めてその歴史的価値が見直され、現在、保存や公開を目指した議論がはじまっています。



戦跡/第32軍司令部壕入り口(写真提供:那覇市歴史博物館)



👆 歴史ポイント④

王国の繁栄を刻む「万国津梁の鐘」

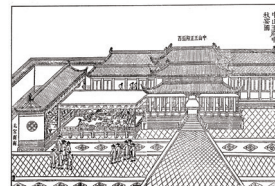


写真提供: 沖縄県立博物館・美術館

「大交易時代」の活況と海洋国家としての首里王府の誇りが「万国津梁の鐘（旧首里城正殿鐘）」に込められています。鐘には「琉球国は南の海の良いところにあり、中国と日本の間にある蓬莱の島で、船で万国の津梁（架け橋）となって貿易を行い、国に宝物が満ちている」という内容の銘文が刻まれ、王国の繁栄を想像することができます。「万国津梁の鐘」は、現在、沖縄県立博物館・美術館に展示されています。

👆 歴史ポイント③

歴史がつなぐ、沖縄の伝統文化



近世の琉球では、冊封使（さっぽうし）や薩摩役人を歓待する際に「琉球らしさ」を演出するため、組踊に代表される宮廷芸能が花開きました。また、漆器や焼き物（やちむん）、紅型といった工芸に加え、泡盛や菓子などの食文化も近世期に大きく展開します。これらは現在の沖縄を代表する伝統芸能・伝統文化として継承されています。

写真提供: 那覇市歴史博物館所蔵